

今月のトピックス

JCOG2109 肺がん外科グループ新規試験

非劣性試験
全生存期間

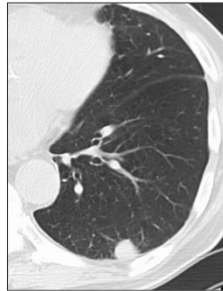
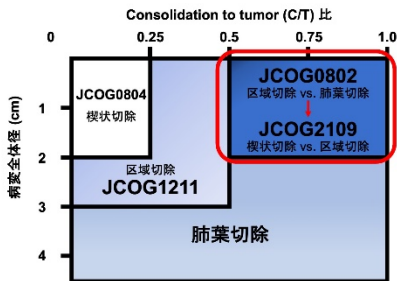
臨床病期IA1-2期の非小細胞肺癌疑い
胸部薄切CTで病変全体径 ≤ 2 cm かつC/T 比 > 0.5
肺葉切除耐術である80歳以上

A群: 区域切除

B群: 楔状切除

一次登録数: 400人

二次登録数: 320人



研究事務局 見前隆洋



研究代表者 佐治久

肺がん外科グループの新しい試験であるJCOG2109「80歳以上の高齢者肺野末梢小型非小細胞肺癌における区域切除 vs. 楔状切除のランダム化比較試験 (AWESOME試験)」が承認され間もなく登録開始となります。

コンセプト作成段階よりご支援・ご協力を頂いたグループの先生方、JCOGデータセンター・運営事務局の皆様、関係者の皆様にご心より感謝申し上げます。

本年4月にThe LancetにAcceptされたJCOG0802/WJOG4607Lの結果で、肺野末梢小型(2cm以下、solid優位)非小細胞肺癌において世界で初めて、primary endpointである全生存期間における従来の標準治療である肺葉切除に対する区域切除(肺葉切除よりも肺切除量が縮小された手術)の優越性が示され、区域切除が新しい標準治療になりました。そのサブグループ解析では、全生存期間において高齢であるほど肺切除量縮小の恩恵を受けることが示唆されました。そこで、高齢者においては全生存期間で劣ることなく区域切除よりもさらに肺切除量を縮小することが可能ではないかと推察され、本試験の発案に至りました。

本試験は肺野末梢小型(2 cm以下、solid優位)非小細胞肺癌に対して肺葉切除への耐術能を有する元気な80歳以上の高齢者を対象に、全生存期間において新たに標準治療となる区域切除に対してさらなる縮小手術である楔状切除が劣らないことを検証する試験となっています。この試験の根拠としては、JCOG0802/WJOG4607Lのサブグループ解析の結果に加え、日本呼吸器外科学会の学術委員会特別企画として行われた高齢者肺癌の外科的治療戦略における「高齢者肺癌に対する外科治療の安全性と有効性を評価するための多施設共同前向き調査研究(JACS1303)」での解析が挙げられます。

この解析では肺野末梢小型非小細胞肺癌を有する肺葉切除耐術と考えられる80歳以上の高齢患者において、全生存期間や他病死に関する解析を行なっています。その結果、従来および新規標準治療である肺葉切除、区域切除に対して楔状切除で有意差は認められないものの良好な予後を示し、また、他病死において楔状切除で少ない傾向を示し、これらが重要な根拠となりました。

肺癌に対する手術の縮小により根治性が仮に多少低下したとしても、その患者さんの全生存期間においてより良い治療が選択されるべきではないか、この概念(Less is more)がJCOG0802/WJOG4607L試験がこれから新たな臨床試験を立案する私たちに投げかけたことです。

これは、肺が重要なvital organであり、かつ再生しない臓器である(とされている)ため、これまでの肺外科治療の歴史で、「pneumectomy is a disease」として肺全摘から肺葉切除に移行した際と同様の考え方です。特に高齢者は若年者と比べて術後早期に他病死が発生するリスクが高いため、肺切除量縮小の意義のある対象患者です。肺癌の治療としてどこまで肺切除量の縮小化を進めていくべきなのか、本試験では高齢者という切り口でそれを明らかにしていきたいと強い思いで臨んでいます。

試験の完遂と成功には皆様のご指導、ご協力が不可欠です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

研究代表者 聖マリアンナ医科大学 佐治久
研究事務局 広島大学 見前隆洋

JCOG研究の論文公表

◇ 消化器内視鏡グループJCOG0508 二瓶 圭二 先生
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/36240951/>
Final analysis of diagnostic endoscopic resection followed by selective chemoradiotherapy for stage I esophageal cancer: JCOG0508
Gastroenterology, 2022 Oct 11, Online ahead of print.

予告 2022/12/16(金)2022年度JCOG総合班会議

JCOG研究の論文公表



◇ 胃がんグループ JCOG1509デザインペーパー 水澤 純基 先生

<https://academic.oup.com/jjco/advance-article/doi/10.1093/jjco/hyac154/6751194>

Protocol digest of a phase III trial to evaluate the efficacy of preoperative chemotherapy with S-1 plus oxaliplatin followed by D2 gastrectomy with postoperative S-1 in locally advanced gastric cancer: Japan Clinical Oncology Group study JCOG1509 (NAGISA Trial) Japanese Journal of Clinical Oncology, 2022 Oct 7, Online ahead of print.

◇ 肝胆膵グループ JCOG1611デザインペーパー 水澤 純基 先生

<https://academic.oup.com/jjco/advance-article/doi/10.1093/jjco/hyac146/6701776>

Protocol of a randomized phase II/III study of gemcitabine plus nab-paclitaxel combination therapy versus modified FOLFIRINOX versus S-IROX for metastatic or recurrent pancreatic cancer: JCOG1611 (GENERATE) Japanese Journal of Clinical Oncology, 2022 Sep 16, Online ahead of print.

担当医別月間登録数



◇ 肺がん内科グループ(月間登録数:2)

米嶋康臣 先生/九州大学病院

◇ 肺がん外科グループ(月間登録数:2)

鮫島譲司 先生/国立がん研究センター東病院

多根健太 先生/国立がん研究センター東病院

鈴木健司 先生/順天堂大学医学部附属順天堂医院

勝又信哉 先生/静岡県立静岡がんセンター

◇ 胃がんグループ(月間登録数:4)

柳本喜智 先生/市立豊中病院

◇ 食道がんグループ(月間登録数:2)

竹野淳 先生/国立病院機構大阪医療センター

◇ 乳がんグループ(月間登録数:2)

三階貴史 先生/北里大学医学部

澤木正孝 先生/愛知県がんセンター

◇ リンパ腫グループ(月間登録数:2)

高橋寛行 先生/神奈川県立がんセンター

福原規子 先生/東北大学病院

◇ 大腸がんグループ(月間登録数:7)

尾嶋仁 先生/群馬県立がんセンター

◇ 骨軟部腫瘍グループ(月間登録数:2)

細野亜古 先生/国立がん研究センター東病院

◇ 肝胆膵グループ(月間登録数:3)

御厨美洋 先生/国立病院機構四国がんセンター

寺島健志 先生/金沢大学医学部

◇ 消化器内視鏡グループ(月間登録数:2)

斎藤豊 先生/国立がん研究センター中央病院

◇ 皮膚腫瘍グループ(月間登録数:3)

竹之内辰也 先生/新潟県立がんセンター新潟病院

(担当医別最多登録数が1例のグループは割愛しています)

グループごと月間登録数



登録数月次レポート

<https://secure.jcog.jp/DC/DOC/member/report/index.html>

グループ	8月	9月	10月	合計
大腸がん	55	58	68	181
胃がん	30	40	37	107
肝胆膵	35	33	31	99
肺がん外科	15	17	31	63
乳がん	17	18	15	50
肺がん内科	10	16	23	49
リンパ腫	16	8	16	40
放射線治療	12	16	8	36
消化器内視鏡	15	9	7	31
脳腫瘍	11	11	7	29
食道がん	7	5	16	28
皮膚腫瘍	8	9	8	25
頭頸部がん	10	7	4	21
婦人科腫瘍	8	3	6	17
骨軟部腫瘍	3	5	4	12
泌尿器科腫瘍	1	2	2	5
合計	253	257	283	793

JCOG
Japan Clinical Oncology Group

JCOGデータセンターより

● 2022年10月の登録例は283例でした。

累積では2,814例となりました。今年も年間登録目標の3,000例を達成できそうです。

12/16には総合班会議を開催します。是非ご参加ください。申し込み受付は別途お送りいたします。

